

# 入所施設・居住系サービスにおける 新型コロナウイルス感染拡大防止

## ～日常から行う対策 編～

福井県健康福祉部長寿福祉課・障がい福祉課  
福井県新型コロナウイルス感染拡大防止対策チーム

# 主な参考資料

- 1) 社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について(その2)、厚生労働省事務連絡、2020年4月7日
- 2) 高齢者介護施設における感染対策第1版(及びQ&A)、日本環境感染学会、2020年4月3日
- 3) 高齢者介護施設における感染対策マニュアル改訂版、2019年3月
- 4) 医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド第3版、日本環境感染学会、2020年5月7日

※いずれもインターネットから入手可能

# 新型コロナウイルス感染症の主な症状



発熱  
76.8%



全身倦怠感  
47%



咳  
46.1%



咽頭痛  
29%



鼻汁・鼻閉  
25%



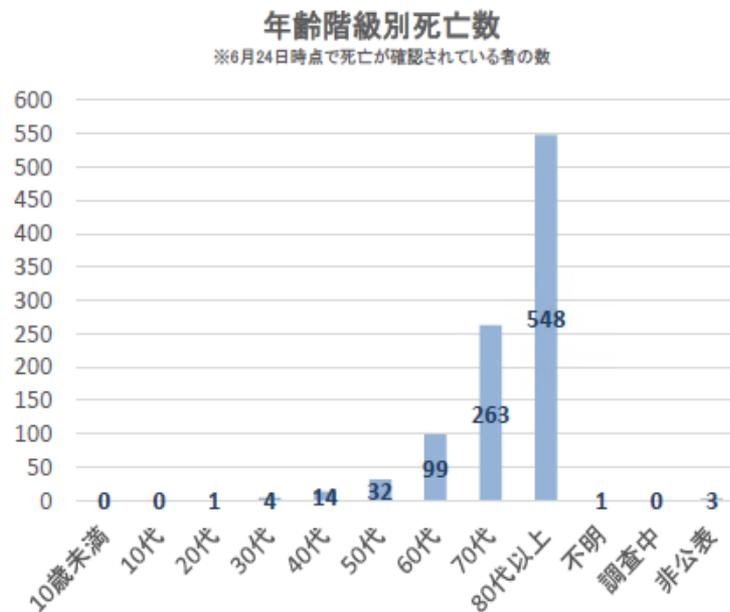
頭痛  
24%



下痢  
19%

# 高齢者や基礎疾患がある方は 重症化・死亡のリスクが高い

	発熱 (n=475)	咳 (n=465)	肺炎 (n=387)	集中治療を要する 重症な状態		
10歳未満	4 (67%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
10代	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
20代	34 (76%)	27 (61%)	11 (33%)	0 (0%)	1 (3%)	1 (3%)
30代	39 (78%)	39 (81%)	19 (49%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
40代	42 (72%)	41 (75%)	23 (51%)	0 (0%)	1 (2%)	2 (4%)
50代	64 (77%)	65 (78%)	46 (62%)	0 (0%)	2 (4%)	1 (2%)
60代	76 (86%)	69 (78%)	57 (74%)	2 (4%)	10 (16%)	15 (22%)
70代	87 (84%)	78 (77%)	72 (85%)	5 (11%)	17 (25%)	25 (33%)
80代	26 (70%)	30 (81%)	16 (57%)	3 (15%)	4 (20%)	5 (25%)
90代以上	2 (100%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



状態	基礎疾患の有無		
	有り	無し	情報なし/不明
集中治療を要する重症な状態	17人 (49%)	5人 (14%)	13人
	29人 (59%)	4人 (8%)	16人
	11人 (61%)	2人 (11%)	5人

死亡率(%)

全体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
5.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	1.1	5.1	14.9	29.8

【死亡率】  
年齢階級別にみた死亡者数の陽性者数に対する割合

516例の記述疫学、  
国立感染症研究所、2020年3月23日

新型コロナウイルス感染症の国内発生動向調査、  
厚生労働省、2020年6月24日

# 新型コロナウイルスは どのように感染するか

経路01



## 接触感染

感染者が触れたモノや環境は、感染者の手についているウイルスで汚染されることがあります。そこに触れた未感染者の手にウイルスが付着し、その手で眼や口・鼻に触れると感染することがあります。

経路02



## 飛沫感染

感染者が咳やくしゃみ、会話をすると、ウイルスを含む飛沫が放出されます。感染者の近く(1~2メートル以内)にいる人が飛沫を吸い込んだり、飛沫が眼や口・鼻に入ると感染することがあります。

感染が起こりやすい場面＝

腕が届く距離で一定時間(目安として15分程度)、話をしたり運動をする時

# 新型コロナウイルスで分かっていること

【潜伏期間＝感染してから症状が出るまでの期間】

1-14日（一般的には約5日）

⇒濃厚接触者※に該当した場合、最終接触日から14日は健康観察・就業制限などを行う。

※感染期間中に適切な防護具なしに目安として1Mの距離で15分以上の接触があった者、同室・長時間の接触があった者

【感染期間＝ヒトに感染させる可能性のある期間】

発症2日前から発症7-10日程度（隔離開始まで）

⇒無症状でもヒトに感染させる可能性がある

# 施設内で日常から行う対策

## ■ 3密を回避する対策

換気

共用スペースの配置換え、使用時間・人数の制限  
(食事エリア、リハビリ室、スタッフ休憩室・食堂など)

## ■ 標準予防策

手指衛生

個人防護具の適切な使用

環境清掃・環境消毒

咳エチケット

## ■ 職員の健康管理

## ■ 面会制限・方法の検討

## ■ ユニットケアの検討(感染を拡大させない工夫)

(ユニット毎に職員を固定、生活エリアを固定)

# 疑い症例/陽性者が発生した場合の対策

日常から行う対策に加えて

接触予防策＋飛沫予防策＋眼の防護具の使用

## ■ゾーニング

## ■疑い症例が発生した場合の対策

□早期の察知と隔離(空間、物品)

□手袋＋ガウン＋眼の防護具使用

## ■陽性者が発生した場合の対策

□濃厚接触者の把握と対応

□排泄、清潔、食事の対応

# 施設内で日常から行う対策

## ■ 3密を回避する対策

換気

共用スペースの配置換え、使用時間・人数の制限  
(食事エリア、リハビリ室、スタッフ休憩室・食堂など)

## ■ 標準予防策

手指衛生

個人防護具の適切な使用

環境清掃・環境消毒

咳エチケット

## ■ 職員の健康管理

### ■ 面会制限・方法の検討

■ ユニットケアの検討(感染を拡大させない工夫)  
(ユニット毎に職員を固定、生活エリアを固定)

## ■標準予防策

- 手指衛生
- 个人防护具の適切な使用
- 環境清掃・環境消毒



健康長寿の福井

# 新型コロナウイルスに有効な 手指衛生の方法・特徴は？

## 方法

## 特徴

### 手指消毒



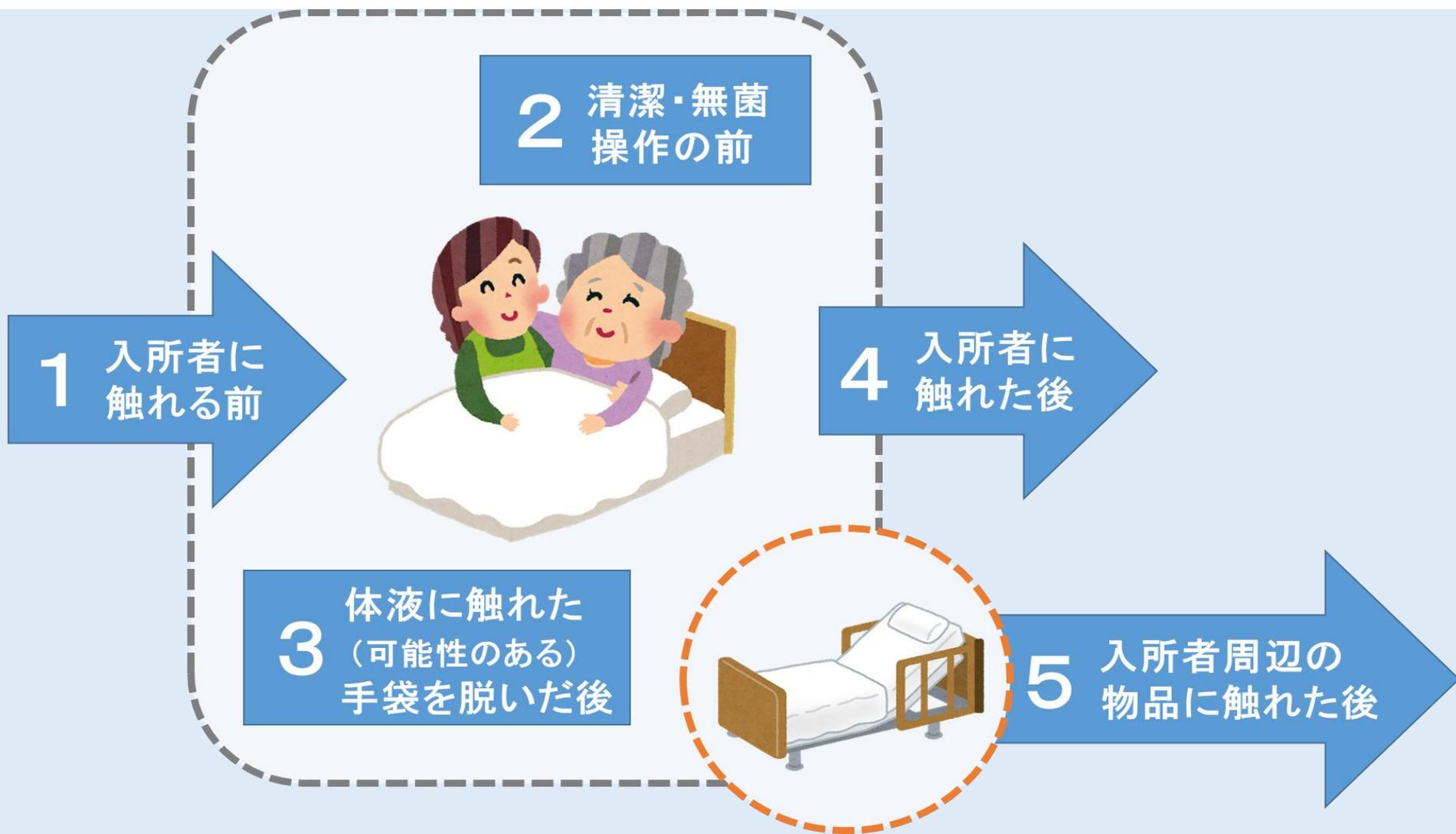
- 目に見える汚れがない場合に行う。
- 手指に付着したウイルスを消毒効果で殺滅する。
- 手指消毒剤の選択が重要。

### 石鹸手洗い



- 目に見える汚れがある場合、トイレ後、食事前に行う。
- 手指に付着したウイルスを物理的に減少させる。

# 手指衛生を行う5つのタイミング



# なぜこのタイミングで行う必要があるか

1	入所者に触れる前	いつ	入所者に触れる前
		なぜ	介護者の手で運ばれる病原体から入所者を守るため
2	清潔・無菌操作の前	いつ	ガーゼ交換・褥瘡処置の前など
		なぜ	病原体が入所者の体内に入らないようにするため。
3	体液に触れた (可能性のある) 手袋を脱いだ後	いつ	排泄介助をして手袋を脱いだ後
		なぜ	病原体から介護者と環境を守るため
4	入所者に触れた後	いつ	体温測定の後、体位交換の後など
		なぜ	病原体から介護者と環境を守るため
5	入所者周辺の 物品に触れた後	いつ	車いす片付後、カーテン閉めた後など
		なぜ	病原体から介護者と環境を守るため

# 新型コロナウイルスに有効な 手指消毒剤は？

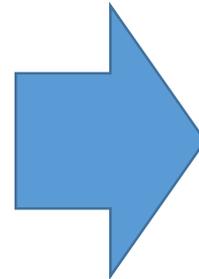
第1選択 70～83vol%濃度のエタノール

第2選択 60vol%台濃度のエタノール

**アルコール消毒剤** 指定医薬部外品

有効成分: エタノール  
(100mL中エタノール79.2mL含有)

※第4類アルコール類(エタノール)、危険等級Ⅱ、水溶性



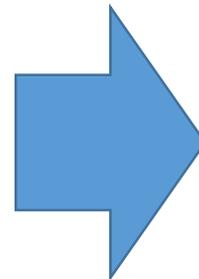
エタノール濃度  
79.2vol%

**手指消毒剤** 指定医薬部外品

有効成分: ベンザルコニウム塩化物

アルコール(溶剤)配合

※本品は消防法上の危険物に該当しません



エタノール濃度の確認  
が必要(製品情報の  
確認・問い合わせ)

# 高濃度エタノールを詰め替えて 使用する場合の注意点

- 詰め替え容器はアルコール対応型のものを使用。
  - ※ペットボトルなどPET素材は破損や溶ける恐れがある。
  - ※詰め替えを繰り返すことでチリやホコリの混入による芽胞菌(アルコールが効かない菌)汚染を受けるため、  
容器は6ヵ月毎や詰め替え毎などに洗淨・乾燥を行う。
- 誤用しないよう、容器には消毒用アルコールであることや火気厳禁などの注意事項を記載すること。
- 直射日光・高温多湿を避けて、常温で保存する。  
火気の近くで保管・使用は避ける。
- 密閉した室内で多量の噴霧は避けること。

# 手指消毒の手順

肘からは衣類を含め、指輪や時計など身に着けない。

1



手の平に受けた消毒剤を、両手指先に擦り込む。

2



手の平によく擦り込む。

3



手の甲を伸ばすように、手の平で擦り込む。

4



指の間、付け根をこすり合わせる。

5



親指を反対の手でねじるようにこする。

6



手首も忘れずに擦り込む。

※ここまで15秒程度

# 手洗いの手順

肘からは衣類を含め、指輪や時計など身に着けない。

1



泡立てた(液体)石鹼で手の平を**15秒以上**洗う。

2



手の甲を伸ばすように、手の平で洗う。

3



指先・爪を念入りにこする。

4



指の間、付け根を洗う。

5



親指を反対の手でねじり洗う。

6



手首も忘れずに洗う。

7



流水で十分にすすぐ。

8



**ペーパータオル**で水分を良く拭き取る。

## ■標準予防策

- 手指衛生
- 個人防護具の適切な使用
- 環境清掃・環境消毒



健康長寿の福井

# 個人防護具の選択【標準予防策】

## 全ての入所者のケア時に適応

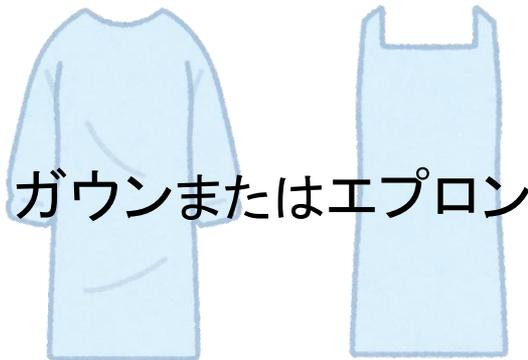
血液・体液・分泌物・排泄物など

手に触れる  
可能性のある場合

手袋



衣服に飛び散る  
可能性のある場合



眼に飛び散る  
可能性のある場合



口・鼻に飛び散る  
可能性のある場合

＋  
(自分の飛沫を拡散  
させたくない場合)

サージカルマスク



# 個人防護具 装着の順番



1  
消毒



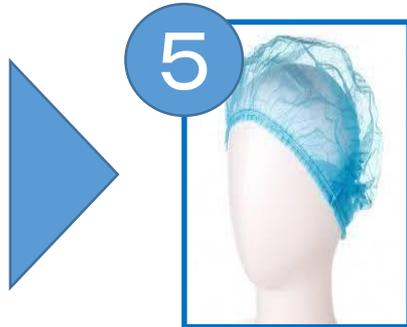
2  
ガウン



3  
マスク



4  
ゴーグル



5  
キャップ



6  
フェイス  
シールド



7  
消毒



8  
手袋

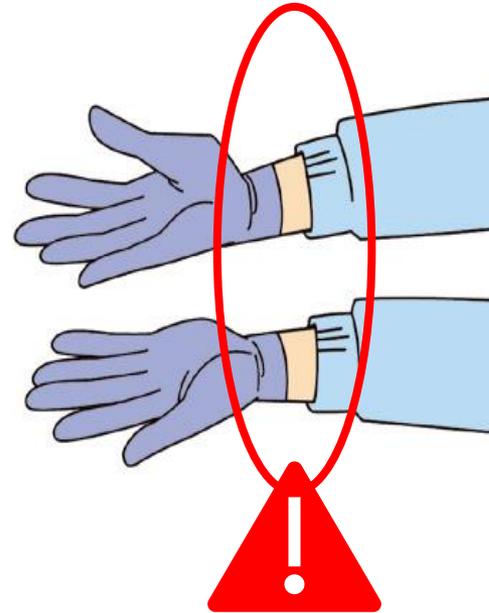
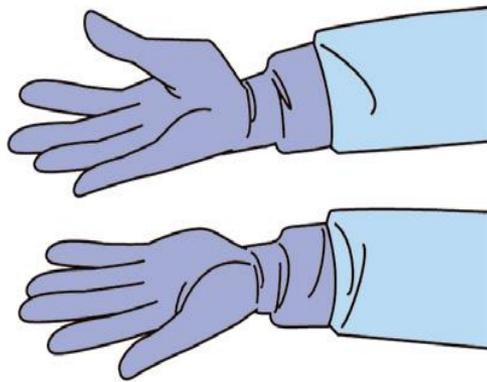
※使用前手袋は清潔に扱う必要があり、箱から取り出す前に手指消毒を行う。  
※ゴーグルorフェイスシールドを使用

# 装着のポイント【サージカルマスク】



- ①②鼻あて部が上になるようにつける。
- ③鼻あて部を小鼻にフィットさせる。鼻全体を覆う。
- ④マスクのプリーツを伸ばし、口と鼻をしっかりと覆う。

# 装着のポイント【手袋】



手首が露出しないよう、ガウンの袖口まで覆う。

# 脱衣時の二次感染に注意する

- 汚染部分・清潔部分を認識しつつ脱衣する。
- 手袋やガウンは汚染面が内側になるよう脱衣する。
- 決められたタイミングで手指消毒する。  
1番汚染されている手袋を脱いだ後、全て脱ぎ終わった後は必ず。

# 個人防護具 脱衣の順番



1  
手袋



2  
消毒



3  
フェイス  
シールド



4  
キャップ



5  
ゴーグル



6  
ガウン



7  
マスク

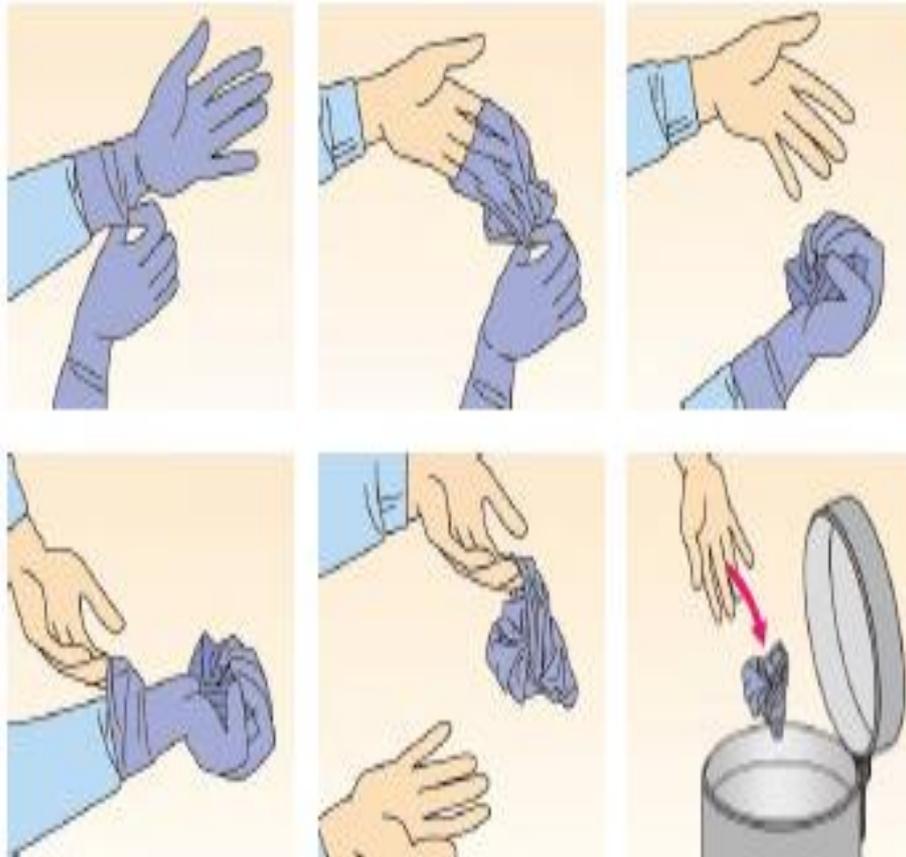


8  
消毒

※最初に1番汚染されている手袋を脱ぎ、その後必ず手指消毒を行う。

※全てを脱ぎ終わった後に必ず手指消毒を行う。

# 脱衣のポイント【手袋】



- ①外側をつまんで片側の手袋を中表にして外し、手に握る。
- ②脱いだ方の指先を手首と手袋の間に滑り込ませ、引き上げるように脱ぐ。
- ③2枚の手袋を一塊となった状態で廃棄する。

**※手袋を脱いだ後は、必ず手指消毒を行う。**

# 脱衣のポイント【眼の防護具】



外側表面は汚染しているため、表面には触れずに  
ゴム紐やフレーム部分をつまんで外す。  
そのまま廃棄するか、施設で決めた方法(消毒方法  
や保管場所など)で再利用する。

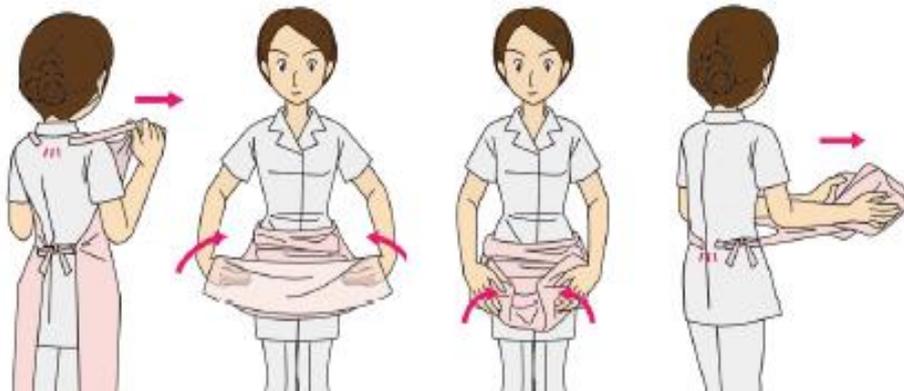
# 脱衣のポイント【ガウン・エプロン】



①首後ろを引きちぎり、外側に触れないよう中表にしなが  
ら上半身を脱ぐ。

②裾を腰の高さまで持ち上  
げ、外側を中にしてまとめる。

③腰ひもを切り、小さくまとめ  
て廃棄する。



※紐が容易にちぎれないものは、前以て  
首・腰の紐を外す、または介助する。

# 脱衣のポイント【マスク】



マスクの表面は汚染されているため、ゴム紐をつまんで外す。

N95マスクは、下の紐→上の紐の順番で外す。

# 脱衣のポイントについて補足

- 手袋は使用直後、汚染されていない物品や環境に触れる前に外す。
- 原則として、ガウンは使用后、部屋を出る前に脱ぐ。  
(ガウン表面は汚染されているため、着用したままあちこち行かない。)

医療機関では、脱衣時の二次感染に注意するため以下の工夫を行っている。※常時でないが新型コロナに関して

- 2人1組で確認しながら脱衣する。
- 脱衣所に鏡を設置し、確認しながら脱衣を行う。

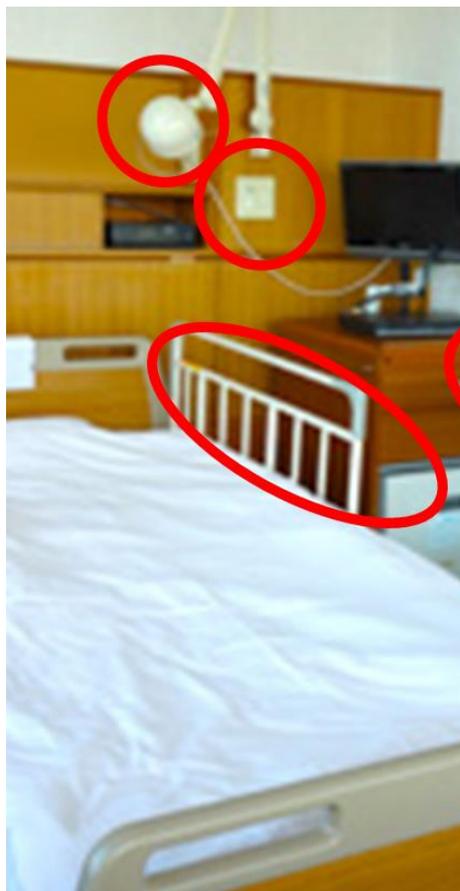
## ■標準予防策

- 手指衛生
- 個人防護具の適切な使用
- 環境清掃・環境消毒



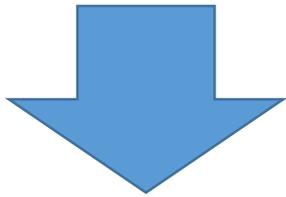
健康長寿の福井

# 日常的に高頻度に触れる 箇所は清拭消毒する



# 新型コロナウイルスに有効な 環境消毒剤は？

0.05～0.1%濃度  
次亜塩素酸ナトリウム



商品により元の濃度が  
異なる。薄めて使用する。

1%、5%、6%  
10%、12%

OR

60～83vol%濃度  
エタノール消毒

OR

一部の界面活性剤  
(独立行政法人 製品評価  
技術基盤機構で評価された  
ものを、決められた濃度・方  
法で使用する)

# 次亜塩素酸ナトリウムの希釈の計算式

消毒液を作る時に必要な原液の量を求める計算式

作りたい  
消毒液の量 (ml)

×

作りたい  
消毒液の濃度 (%)

原液の量  
(ml)

原液の濃度  
(%)

6%次亜塩素酸Na製品を使用し、0.1%溶液1Lを作成する場合、必要な6%次亜塩素酸Na製品の量

$$1000\text{ml} \times 0.1\% \div 6\% = 17\text{ml}$$

# 0. 05%次亜塩素酸ナトリウム ワイプクロス(ふきん)の作り方

## 【準備物】

□ 5～6%次亜塩素酸Na

□ 水500ml

(ペットボトルを利用し計量)

□ 不織布ガーゼや

キッチンペーパー等

□ ジップ付き袋

作り方などについて、日本看護協会  
「3つの密を避ける！(施設編)」で  
動画(youtube)視聴可能

## 【手順】

- ①ジップ付き袋に水500mlと、  
ペットボトルキャップ1杯(約  
5ml)の次亜塩素酸Naを入れる。
- ②その日に使用する分の不織布  
ガーゼやキッチンペーパーを  
浸す。

注)清潔な手袋で取り出す。

注)使用後のガーゼは再度漬け  
たりせずに捨てる。

# 次亜塩素酸ナトリウムを 使用する場合の注意点①

- 直射日光や高温を避けて保管する。
  - ※日光や高温により分解が進み濃度低下が起こる。
  - ※溶液を保管する際は遮光容器を使用する。
- 誤用しないよう、容器には次亜塩素酸Na溶液（〇%）であることなど注意事項を記載する。
- アルカリ性の強い製品であるため、**手指など皮膚への使用はしない。噴霧使用は避ける。**
- 使用時は十分な換気を行う。



# 次亜塩素酸ナトリウムを 使用する場合の注意点②

- 金属腐食性が強いいため、金属部分は消毒後10分程度のために、水拭きが必要。
- 有機物存在下では効果が減弱するため、嘔吐物や排泄物は取り除いてから消毒する。
- 溶液の使用期限を設け、期限を守る。
  - ※0.1%溶液では7日程度、0.02%では24時間
  - ※濃度に関わらず、汚れの混入があれば破棄
  - ※溶液を保管する容器には、作成日と使用期限を記載する。もしくは毎日定時に使用する分だけ作成し、その日で使い切るなど工夫する。

# 次亜塩素酸ナトリウムの 経時的な濃度低下と希釈方法

※花王のハイター、キッチンハイターを使用する場合

	0.05%以上	0.1%以上
生産時濃度 6%の場合	水3Lにキャップ 約1杯(25ml)	水3Lにキャップ 約2杯(50ml)
購入から 3ヶ月以内	水1Lにキャップ 約0.4杯(10ml)	水1Lにキャップ 約0.8杯(20ml)
購入から 1年以内	水1Lにキャップ 約0.6杯(15ml)	水1Lにキャップ 約1.2杯(30ml)
購入から 3年以内	水1Lにキャップ 約1杯(25ml)	水1Lにキャップ 約2杯(50ml)

## ■職員の健康管理



健康長寿の福井

# 職員の健康管理について

- 流行地域や3密に該当する場所への外出を自粛する。
- 手指衛生を励行する。
  - ※手指衛生していない手で眼や口・鼻には触れない
- 体調が悪い場合は休む必要があることを本人、管理者は認識しておく。
- 職員家族が体調不良（急性上気道感染症の症状がある）の場合、職場にも報告する。職員が体調不良でなければ出勤可能だが、マスク着用・手指消毒など感染対策を徹底する。

施設全体での共通認識として周知・理解しておく。

# 職員が体調不良の場合

○ 職員は、各自出勤前に体温を計測し、発熱等の症状が認められる場合には出勤を行わないことを徹底すること。なお、過去に発熱が認められた場合にあつては、解熱後24時間以上が経過し、咳などの呼吸器症状が改善傾向となるまでは同様の取扱いとする。なお、このような状況が解消した場合であっても、引き続き当該職員の健康状態に留意すること。

該当する職員については、管理者に報告し、確実な把握を行うよう努めること。

ここでいう職員とは、利用者に直接介護サービスや障害福祉サービス等を提供する職員だけでなく、事務職や送迎を行う職員、調理員等、当該事業所のすべての職員やボランティア等含むものとする。

参考資料1)

- 発熱等の症状がある間は出勤しない。
- 解熱後24時間以上経過し、呼吸器症状が改善するまで出勤しない。
- 相談・報告の目安(後述)に該当する場合は、保健所に相談する。
- 該当する場合は管理者に報告し、管理者は確実に把握する。

# まとめ

日常から行う対策として、以下を行う。

- 3密を回避する対策
- 標準予防策
- 職員の健康管理
- 面会制限・方法の検討
- ユニットケアの検討

- 個人防護具、手指衛生、環境消毒に必要な物品を準備しておく。
- 日頃から適切な方法で手指衛生や個人防護具の着脱を行う、事前に訓練を行う。
- 体調不良時は休めるような環境作りが必要。